

2025年度 長岡大学シラバス

授業科目名	簿記入門1 (Introduction to bookkeeping1)					担当教員	番 雪氷 (キョウ セツヒョウ) 和田 智美 (ワダ トモミ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目/知識定着・確認 型AL
	2036-0-11-066	専門科目	必修	2単位	1年次	前期		
2024-25年度 入学者(24K-25K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目/知識定着・確認 型AL
	2436-0-11-005	専門科目	必修	2単位	1年次	前期		

① 授業のねらい・概要
複式簿記は14世紀頃、北イタリアで誕生した後、株式会社の発展とともに世界へ広がり、明治初期に日本でも取り入れられた。現代企業における簿記は、日々の取引を帳簿に記録し、経営成績と財政状態を財務諸表としてまとめる一連の手続きである。本講義は簿記の基礎を修得し、日商簿記初級検定試験に合格することを目標とする。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力
③ 授業の進め方・指示事項
毎回必ずテキストと電卓を持参する。簿記を学ぶ上では、受講するだけでなく、実際に手を動かし、問題を解くことは大事である。毎回、練習問題のプリントを配布し、授業内でも必ず問題を解く時間と質疑応答時間を設ける。受講後、復習と練習問題を繰り返し解いてください。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
「簿記入門2」とともに履修することを強く推奨する。
⑤ テキスト(教科書)※授業で使用する。
滝澤ななみ(2025)『2025年度版 スッキリわかる 日商簿記3級 テキスト+問題集』TAC出版
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。
その都度提示する。
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)
本講義は資格対応科目である。まず、小さい目標(簿記初級を合格すること)を設定し、クリアしたら、3級、2級、1級と段階的に目指しましょう。初級簿記の試験方式はインターネットを介する「ネット試験」であり、希望者は教員に相談すること。
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 教科書範囲の基本取引を理解し、それぞれの仕訳を正確に書くことができる。 (ii) 仕訳帳と総勘定元帳の関係を理解し、転記のルールに従い転記することができる。 (iii) 総勘定元帳の構造を理解し、試算表を用いて合計及び残高を集計することができる。

⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 教科書範囲の基本取引について	教科書範囲のすべての取引について、仕訳を書くことができる。	教科書範囲の取引の8割以上について、仕訳を書くことができる。	教科書範囲の取引の7割以上について、仕訳を書くことができる。	教科書範囲の取引の6割以上について、仕訳を書くことができる。	教科書範囲の取引の5割について、仕訳を書くことができる。
(ii) 仕訳帳と総勘定元帳の関係と転記のルール	初級簿記検定試験レベルの転記問題を解くことができる。	帳簿を十分に理解し、教科書範囲の転記問題を解くことができる。	基本取引の仕訳を書けるし、正確に転記することもできる。	仕訳帳を見ながら、総勘定元帳へ転記することができる。	帳簿を理解せず、転記することができない。
(iii) 各試算表の作成	初級簿記検定試験レベルの試算表問題を解くことができる。	総勘定元帳の構造を理解し、試算表を用いて合計及び残高を集計することができる。	与えられた帳簿を元に、3種類の試算表を作成することができる。	与えられた帳簿を元に、1種類の試算表を作成することができる。	総勘定元帳の構造を理解せず、試算表を作成することができない。

⑩ 学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	60%	40%					100%
(i) 基本取引を理解し、仕訳を正確に書ける。	60%	20%					80%
(ii) 仕訳帳から総勘定元帳へ転記できる。		10%					10%
(iii) 試算表を作成できる。		10%					10%
フィードバックの方法	教科書「問題編」の練習問題を解くことは講義内容の再確認となる。間違えた箇所を復習し理解を深める。						

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	ガイダンス 簿記と会計の歴史、簿記の基礎①	教科書のはしがき pp. 12～33 を読んでくること。 簿記の一巡手続きを理解する。宿題を完成する。	120分
2	第1章 簿記の基礎② 仕訳・転記	教科書 pp. 2～10 を読んでくること。 宿題を完成する。	120分
3	第2章 商品売買① 仕入・売上	教科書 pp. 12～23 を読んでくること。 宿題を完成する。	120分
4	第2章 商品売買② 返品・諸掛り	教科書 pp. 24～29 を読んでくること。 宿題を完成する。	120分
5	第3章 現金・現金過不足 転記・試算表	教科書 pp. 30～40 を読んでくること。 宿題を完成する。	120分
6	第4章 普通預金・当座預金・当座借越	教科書 pp. 41～52 を読んでくること。 宿題を完成する。	120分
7	第5章 小口現金・復習・中間小テスト	教科書 pp. 53～60 を読んでくること。 宿題を完成する。	120分
8	第6章 手形と電子記録債権（債務）	教科書 pp. 61～69 を読んでくること。 宿題を完成する。	120分
9	第7章 貸付金・借入金など	教科書 pp. 70～78 を読んでくること。 宿題を完成する。	120分
10	第8章 未払金・未収金・前受金・前払金など	教科書 pp. 79～91 を読んでくること。 宿題を完成する。	120分
11	第8章 預り金・仮受金・立替金など	教科書 pp. 92～106 を読んでくること。 宿題を完成する。	120分
12	第9章 その他の費用	教科書 pp. 107～116 を読んでくること。 宿題を完成する。	120分
13	日商簿記初級検定試験対応問題① ・仕訳帳と総勘定元帳 ・固定資産	配布した資料と課題を復習する。	120分
14	日商簿記初級検定試験対応問題② ・転記 ・試算表 ・伝票	配布した資料と課題を復習する。	120分
15	総括・復習問題	配布した資料と課題を復習する。	120分

⑫ アクティブラーニングについて
講義では、テキストに沿って解説をし、次に問題を解いて理解を深めるようにする。質疑応答の時間も設け、知識の定着を図る。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
[和田智美] 税理士事務所の勤務を経て、税理士として独立開業している。主に、地域の中小企業の税務・会計・相続・事業承継に関する業務に従事している。
実務経験と授業科目との関連性
[和田智美] 様々な企業の会計処理の経験から、テキストで紹介されている例題について具体的な事例で紹介が可能であり、分かりやすく解説する。